

# M&I

## M&I 電子版セレクション

2006年にソフトブレン会長を退任し、いまは経営コンサルタントとして中国と日本を行ったり来たりしています。経営者だったときは個人的な投資は一切、やりませんでした。経営と投資は使う神経がまったく逆ですから。ただ、経営者として事業にはずっと投資をしてきたので、「自分には投資経験がある」と誤解し、会社を辞めた後、お金を突っ込んで大失敗しました。

経営者として実業に投資していたときには恐怖感はありませんでした。人を雇って、機械を買って先行投資する。失敗して撤退することもありましたが、人材とかノウハウとか、次に生き



人につられず、自分で考えることが大事だという宋氏

る何かが必ず会社に残ります。

一方、株やファンドや金融派生商品を買う投資は、値下がりするともうそのまま。喪失感が残りません。しかも、勝ったからといって、達成感もないんですよ。

そのサイクルを1回、経験して、資産運用に愛情が持てなくなりました。その代わり、負けなくなりました。1年間に数回、売買するだけ。世界のニュースを注意深く見ていけば、最安値で買って最高値で売ることが無理でも、それに近い水準で売買できます。

中国株については今年3月に全部売りました。14年半ば以降の上海総合指数の上がり方は不自然だと思っていたところ、人民日報に「中国の株価はま

だ上がりそう」という趣旨の記事が増えてきたのを見て、これは中国政府が意図的に株価を上げようとしている官製相場だと確信しました。

売ったとき、上海総合指数は3300~3400円。その後、6月に5000円台をつけましたが、全然悔しくないです。強がってるわけじゃないですよ。「自分はこれでいい」という確固たる考えで売買しているからです。

伝説の投資家が残した言葉に「強気相場は悲観の下で生まれ、懐疑の中で育ち、楽観で成熟し、狂喜と共に終わる」というものがあります。相場を動かすのは絶望と狂喜なんです。

日経平均を1万円で買った人は、1万2000円で売っています。しばらく、8000~1万円前後をうろちょろしていたので、やれやれ、と売っているはず。そして、今度は1万2000円台で買う人が現れます。その人たちは、2、3割上昇したら、さすがに売っています。結局、日経平均は2万円台に乗りましたが、7000円台で買った人が2万円台で売ったわけではないんです。その間、いろいろな人が参加しては去り、狂喜のリレーをしたのです。

逆に中国株でいうと、6月に5000円でも売らなかったような連中が、8月中旬以降は、3000円台でバンバン売りました。これは絶望の連鎖です。

絶望と狂喜の相場の中で必要なのは、忍耐力だと思います。相場を動かすのは人の心理。だから、人につられるのではなく、きちんと自分のアタマで考えることが大事だと思います。上値も下値も追いかけて相場に翻弄されるのではなく、3割上がったならもうそれでよしとして売り、その後、さらに上がっても気にしない。覚悟と決意と忍耐力で臨むべきだと思います。

(経営コンサルタント 宋文洲)

▶マネー→投資入門→わたしの投資論

わたしの投資論

絶望と狂喜の相場、忍耐力勝負